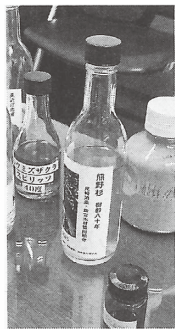


尾崎酒造(和歌山県新宮市、佐原謙次社長)はこのほど、地元熊野杉を発酵して造る「木の酒」を森林総合研究所(茨城県つくば市)で醸造し、上田勝之新宮市長、新宮木材協同組合(新宮市)など地元関係者を含めて試飲を行った。

同社は2024年3月、村上木材(大阪市、同社長)が株式を100%取得し、グループ化した酒造



熊野杉で造られた「木の酒」

「熊野の木の酒」を地元関係者に振舞う

尾崎酒造 会社。森林総研で木材から酒を造る技術の開発に成功したことを知った佐原社長が、木材を使った酒造りという夢に對して、酒造会社を傘下に収める形で本格的に取り組んでいく。酒造りのプラント設置はまだ先のことだが、森林総研で熊野杉を原料に試作を行った。

木の酒の試飲では、材料調達などで協力した新宮木材協同組合の植松浩代表理事、谷口泰仁副理事長、山本盛都事務局長らも参加して行われた。

佐原社長は「世界遺産の熊野古道、熊野速玉大社、熊野本宮大社などが近くにあり、熊野の水と木を使った木の酒造りを通じて、熊野の魅力を内外に発信していきたい」と話した。

紀州材を使うショットとなる交流センターを建設中で、ちょうど、上棟したところ。

この後、倉庫の建設、プラントなどの設置を進め、3年後くらいにはオリジナルの木の酒を醸造していく計画だ。

今度は熊野桜を原料にした試作品も醸造する計画がある。